

令和 6 年度 第 1 回郡上市市民協働活動審査会 要録

日 時：令和 6 年 5 月 29 日(水)13 時 30 分～14 時 50 分

会 場：郡上市役所本庁舎 4 階大会議室

出席者：(審査委員) 笠野信男、上村英二、河合保隆

(事務局) 三島政策推進課長、木嶋課長補佐、地口主任主査、田仲主任

欠席者：(審査委員) 置田優一、武藤里恵

傍聴者：なし

1. 開会（13：30～）進行：三島政策推進課長

郡上市市民協働活動審査委員の任命について、事務局より郡上市市民協働活動審査会設置要綱第 3 条第 1 項第 3 号に規定する「副市長」には置田副市長、第 4 号に規定する「市長公室長又は当該事務を所管する他の部長」には河合市長公室長が新たに任命された旨を報告し、同設置要綱第 3 条第 1 項第 1 号に規定する「市民協働及びまちづくり分野の有識者」として委嘱していた乾松幸委員は、副市長就任に伴い委員を退任された旨の報告を行った。

また、事務局より同設置要綱第 6 条第 3 項に規定する定数に達していることから、本審査会は成立することを報告した。

2. 審査会進行・審査資料に関する説明

3. 魅力ある地域づくり推進事業補助金交付申請に対する審査（進行：笠野会長）

（1）石徹白聞き書きの会（出席：石徹白代表、平野副代表）13:40～14:05

【市民活動部門 地域づくり助成型】

事務局より審査の流れ等を説明した後、団体から事業内容等の説明を行った。

（団体からの説明）

- ・石徹白地区の 70 代以上の方達の昔の話を聞き取り、冊子にまとめ、地域文化の継承、独自の地域の魅力発見、地域づくりに活かしていく活動を行っています。
- ・今回は第 4 集になりますが、第 3 集の製作の際もこの補助金を申請し補助を受けた経緯もあり、今回も申請しました。
- ・インタビュー形式で石徹白地域のお年寄りの方、年配の方で、これから埋もれていくのではないかなというものも含めて書き起こしをして、地域のことを将来に伝えていくために冊子を作り、記録として残しています。

- ・小説などと違い、執筆者の考えなどを入れ込まず、その人の言葉そのままを書き起こしており、その人の人生や生活がそのまま記録に残るように、素朴ではありますが、この事業を14年間継続して行っています。
- ・補助金申請は今回2回目となります。これまでに集めたデータがあり、今回はそれをまとめて地域や関係者、教育関係者などに配布し、役立てていただくという趣旨です。
- ・事業計画書に記載していますが、特に伝えたいこととして、この事業によって80代、90代の方が持っている知恵が、冊子にまとめることで何とか継承ができているということが非常に大きいと思います。
- ・毎年地域には移住者が増えていますが、どうしても核家族なので上の世代から伝えられることが難しくなっている中で、この聞き書き集を読んで、こういう生活だったのかということをみんなが知ることができるということ、また、特筆すべきこととしては、全国的な調査の際に民俗資料としてもこの聞き書きの冊子を使っていただくなど、インタビューや雑誌掲載とは違う資料として非常に価値があるものだということを感じています。
- ・ただし、販売してたくさん売れるものではないので、補助金を活用させてもらうことで継続できる活動でもあると思っています。

(質疑応答)

笠野会長：事前に質問した事項の回答はいただいておりますが、団体からその他に追加でお話いただくことはありますか。

団 体：特に意見はありません。

笠野会長：審査委員からその他に質問事項はありますか。

上村委員：11人の委員の中で石徹白生まれの人は何人ですか。

団 体：5人です。

上村委員：移住された人もいる中で地域のことを知ろうとすることはすごく良いことだと思いますし、地域の人も参加して5:6の割合となっているのは良いバランスだと感じます。これまでに3部製作され、地域の人には好意的に受けとめられているか、エピソードがあればお話いただけますか。

団 体：聞き書き集に掲載させていただいたおばあちゃんが亡くなった時、その家族の方が冊子を欲しいと言ってきて、10部ほど親戚に配るということで取りに来てくださったということが印象的でした。家族でもなかなか聞けない話があるということをその人はおっしゃっていて、そういうこともきちんと書き残すことができたと思います。

河合委員：最近では、デジタルアーカイブ化、デジタル化ということもありますが、あえ

て冊子を選ばれている理由を教えてください。

団 体：デジタル化して公開し、誰でも見れる状態にして良いかということも会の中で議論をしました。冊子への掲載については許可を得て行っていますが、冊子は紙媒体なので広がりもある程度限定的になりますが、デジタルになると、もしかしたらお年寄りの中で、ちょっと載せないで欲しい、ここは公開して欲しくないということが出てくる可能性があると思い、あえて紙媒体で、かつ、ご家族の中できちんと保管できるようにするため、冊子ということが大事だと思っています。

河合委員：必ずしもデジタルが良いと思いませんし、冊子ということに価値があるとも思いましたので理由をお聞きしました。聞き取りのテーマですが、先程お年寄りの生活やこれまでの歴史と伺いましたが、その他にも聞いてみたいことが出てきた時は、別のテーマで聞くということもありますか。

団 体：基本的に聞き取りは私たちが行っており、澁澤先生の聞き書きではその方の人生について聞くことがメインとなります。ですが、1回目に全体的なことをお聞きした際に、例えば漬物のことがすごく詳しくあったなどがあれば、2回目には漬物をテーマにするなど、より深く聞いていくこともあります。

河合委員：一人に対して、大体どのぐらい聞かれますか。

団 体：それは人によりそれぞれです。1回2時間で終わる人、もっともっととなる人など、私は最大6日間くらい通ったこともあります。本当にその人によります。口調などからもっと話したい感じがあればどんどん聞いていきますし、これぐらいでという人なら1回止めるという感じで、状況によって変えることもあります。

河合委員：この聞き取りの取り組みは、これからも継続されますか。

団 体：はい、そうです。

笠野会長：魅力のある取り組みだと思います。私は明宝ですが、奥美濃よもやま話を作っていた金子先生との関係があり、今は地元から奥美濃よもやま話を読む会というのを作って活動していますが、今ではその活動が明宝だけでなく、だんだん広がってきている状況です。お話の様に世代間で知らないことは多いので、こういう取り組みがなければ残らない。そういう意味では素晴らしい取り組みだと思います。ぜひ継続していただきたいと思います。

(審査終了)

(2) 郡上南天フェス実行委員会 (出席：可児代表世話人) 14:05～14:30

【市民活動部門 地域づくり助成型】

事務局より審査の流れ等を説明した後、団体から事業内容等の説明を行った。

(団体からの説明)

- ・郡上で栽培されている南天は、日本一の南天組合生産量を誇る「郡上南天」ブランドとして出荷されています。ですが、私自身 4 年前から南天組合の組合員として生産に携わっていますが、印象としてまだ認知度が高いとは言えず、まずは市内で南天の知識や興味を深める場を設けたい。地域の方と協力して、郡上八幡一帯を真っ赤に彩りイベントを開催することで、冬ならではの活気がある地域づくりを郡上八幡で行いたいと思い、企画しました。
- ・事業内容としては、南天を使用した体験のワークショップ、こちらは子供向けのものを考えています。これは今年 3 回目になりますが、過去 2 回はすべて自己負担、自己資金で実施していることもあって、すべて手づくりの看板などを使っているのもっと周りの皆さんに賑わいを見てもらえるように、PR のための情報発信、チラシ、ポスター、のぼり等の作成、展示物などの製作を考えています。
- ・南天は季節ものなので 11、12 月に集中して活動していますが、今年はこの魅力ある地域づくりの補助金を利用することをきっかけにして、オフシーズンにも月 1 回、会議の開催を予定しています。情報発信も年間を通じて実施して、郡上八幡が南天のまちということも PR をしていきたいと思っています。
- ・スケジュールとしては、午前中に実行委員会のメンバーで話してきたところですが、これから企画を立ち上げ、詳細を決めて、各所へ協力依頼を行っていきます。7 月、8 月は郡上南天についてと書いていますが、南天を使ったのど飴について取材や展示物などを作る予定です。9 月はチラシ、ポスター、のぼりの作成にかかっていきます。10 月はワークショップの講師と予定を調整していきます。また、シンボルオブジェとありますが、町中に、南天を使ってフォトスポットとなるようなオブジェを作る予定ですので、こちらも企画を進めていきます。城下町内にチラシ配布というのは、普段ですと 12 月はお店を閉めている所も多いので、このイベントの日はお店を開けてくださいというようなお願いを、チラシを持って回る予定をしています。マップ作成は、イベント当日にメイン会場を飾る大きな郡上八幡のマップを作る予定です。11 月に入ると、ポスター、チラシの配布を始めます。11 月 20 日以降はもう南天の収穫があるので、いろいろ平行しながらの作業になりますが、あくまでこの南天フェスというのは、南天の出荷の副産物という位置付けなので、まず 20 日前後、20 日から 1 週間位で南天の出荷作業を行い、その後、イベントの作業に移ります。城下町内に飾る南天の装飾品製作については、シンボルオブジェの製作のお話をしましたが、他にも郡上南天で十二支のオブジェを作って、町中に配置し、探しに行ってもら

えるスタンプラリーのような企画も考えています。そして、12月7日に郡上南天フェス2024を開催予定です。

- ・今後の展望としては、イベントをきっかけに、郡上南天の価値や存在に関心を持っていただき、若い南天生産者の担い手が増え、生産量も増えていくことを目標としています。他にも郡上八幡に冬の足取りが増え、南天を活用した新商品づくりなどにも発展するよう、これからいろいろな人とコラボをしていきたいと思っています。
- ・イベントの対象者としては、市内外問わず、どなたでも参加できるイベントを企画します。特に親子向けのイベントには力を入れていきたいと思っています。
- ・事業効果としては、町内で店を構える既存の店舗の皆さんにも協力をいただくことに力を入れ、町全体の集客に繋がるようなイベントにしていきたいと思っていますし、南天の赤で彩った町を見たり、楽しく学ぶことで、子どもたちがいつかUターンしたくなるような活気のある町にしたい、そのようなイメージを持っています。

(質疑応答)

笠野会長：事前に質問した事項の回答はいただいておりますが、団体からその他に追加でお話いただくことはありますか。

団 体：特に意見はありません。

上村委員：南天生産量日本一と説明がありましたが、郡上の南天の生産状況や組合の歴史など、簡単に結構ですので教えてください。

団 体：郡上南天組合は結成されて40年くらいの歴史があり、みかん箱ほどの箱に約5キロの南天を入れ、それを平均で年間約6000箱、中京、関西に向けて出荷しています。ただ、これは自分が南天組合に入会した4年前の話で、郡上南天ブランドを確立されたのは過去の方ががんばった実績で、今は減っている現状もあります。他の地域の生産が伸びていることもあり、農務水産課のデータでは、もしかすると現在は日本一では無い可能性もあるとも聞いており、危機感を感じています。

河合委員：過去に越前屋でワークショップを実施された記事を見ましたが、これは関連したイベントですか。

団 体：それは南天フェスとは違い、4年ほど前に桂南天さんという落語家の方が郡上八幡を訪れた時に、別の団体が主催されたイベントになります。個人としてはワークショップ講師として協力しています。

河合委員：これまでの催しと今年の違いについて、特にこの補助金を受けて実施することによって、ここを変えたいという所は何ですか。

団 体：私を含めて、メンバーのほとんどが子育て世代のお母さんたちなので、ボリュ

ーム自体を大きくしたいという思いはありませんが、去年は、地域の人にはまだイベントの認知度が低く、前の南天まつりと何が違うのかという印象で、情報発信などをがんばったことで、イベント後には皆さんがまた協力したいという思いを見せてくれました。イベントを大きくする、ワークショップをもっとたくさんやるということではなく、自分たちがどういう想いでやっているかということをしてできるだけ多くの人に知ってもらい、共有することが大事だと昨年感じたので、今年は魅力ある地域づくりの補助金を活用して、それも信用の1つとしてイベントへの協力依頼を行っていきたいです。有志の団体ではありますが、冬の郡上市を代表するイベントにしていきたいという思いで、まずは地域の人に知ってもらうということに力を入れていきたいと思います。

笠野会長：南天のど飴について教えてください。まず、メーカーは1社ですか。

団 体：メーカーは1社ですが、南天組合が関わっているのは、製菓メーカーではなく、南天エキスを製造する会社になります。製菓メーカーにも去年のイベントの活動報告を送るなどコンタクトを取って、南天のど飴のパネル展示のための情報を聞けないかと思っています。

笠野会長：もう1点、南天フェス実行委員の名簿がついてますが、この人たちは全員南天組合に入っていますか。

団 体：このうち南天組合員は1人だけです。

(審査終了)

(3) しろとりデイキャンプ実行委員会（出席：上村事務局長）14:30～14:55

【市民活動部門 地域づくり助成型】

事務局より審査の流れ等を説明した後、団体から事業内容等の説明を行った。

(団体からの説明)

- ・しろとりデイキャンプは過去に2回実施しています。その際は、公民館の資金を主な財源に取り組んできました。しかし、公民館もこの事業だけに財源を費やすことはできず、その折にこの補助金を知り、魅力ある地域づくり推進事業の目的に合致するのではないかと思います、申請しました。
- ・事業の大きな目的は計画書にも記載しましたが、少子化や学校と地域との関係の希薄化などが問題視される中で、地域と学校の協働による地域づくりの重要性という課題が浮き彫りになってきたと捉えています。これは社会教育を中心とした地域学校協働活動が基盤になっていますが、こうしたことを運営するには学校を活用した地域づくりが大事だと謳われていますし、私たちもそう思っています。

- ・2 つ目に、郡上の未来を担う子どもたちの育成のため、郡上市のコミュニティスクールというものを運営していかないといけない。凌霜の心で開く明日の郡上ということを具現化していく、それに徹することが大事なのではないかと捉えました。
- ・学校と地域との良好な関係の中で地域はますます活性化していく、そうしないといけないだろうし、また、子たちが体験を積み重ねていくことで、自分で答えを見出す、学びを開いていくという姿が実現していくのではないかと思います。生まれ育ったふるさとで、高校を卒業する 18 歳までに楽しい体験ややりがいのある体験をした人は、きっと、ふるさとに戻る素地を養ってくれると思います。そういうことが活性化や持続可能な地域づくりに繋がっていくと考えています。
- ・過去 2 回の中では、この取り組みで子どもたちが楽しみ、親も地域づくりに貢献、寄与していきたいという機運が生まれていると感想もいただいていますので、地域の皆さんと一緒に活動できればと思います。
- ・これは学校行事ではないかとの話もいただきましたが、想いを伝えたいということで今回説明の機会をいただきました。

(質疑応答)

笠野会長：事前に質問した事項の回答はいただいておりますが、団体からその他に追加でお話いただくことはありますか。

団 体：ありません。

河合委員：白鳥小学校の 3 年生を対象に事業を計画されていますが、事前質問の回答の中に 3 年生は地域に目を向ける入口となる学年であるとの回答があり、そういう視点もあるとも感じますが、一方で、地域づくりを考えた時には、例えばもっと対象を広くして募集するという考えはありませんでしたか。

団 体：なぜそういう募集をしないかということについては、1 つは学校も地域づくりに関与し、主体的に動けるようにするためには、どこかの学年を設定して、また、私たちがやろうとすると土曜、日曜になるので、そうではなく平日に皆さんが参加できる機会、場を設定することが大事ではないかということで、3 年生は中学年で、自分たちの周りや学校から地域に目を向ける時期ということも含め、地域の大人たちと一緒に活動できる機会を作ってはどうかと考えました。そのためには学校の教育課程を少し変えなければいけないこともあり、一番支障のない所で親子行事とのタイアップという形で考えました。

河合委員：そういう考えもあるのかという一方で、やはりこの事業は学校行事ではないかという思いが拭い切れません。例えば、地域づくりの観点では地域全体の子どもに目を向け、白鳥小学校区あるいは公民館のエリアの子どもに目を向けて幅

広く参加できる仕組みでも良いのではないかという印象を持ちますがいかがでしょうか。

団 体：白鳥公民館は白鳥小学校区だけです。地域公民館としては、全体を見て事業を行っています。白鳥地区としては3世代交流の白鳥おどり、もっと白鳥全体で考えているものでは、高校生とタイアップして、高校生が企画する事業を募集し、高校生や白鳥シニアリーダーを中心に小学生、中学生、高校生と連携した事業も行っています。今回は、地域学校協働活動ということが前提にあり、その実現の為にどうしたら良いかということが根底にあります。なぜ公民館が実施するかということについては、音頭を取るものがないので、まずは公民館がということです。放っておいては誰もやらないので、地域学校協働活動ということを踏まえ、誰かが声を上げ、こんな方法ではどうかと呼びかけを行わない限り実現できないため計画したのがこの企画です。これまで2年実施し、3年目になりますが、あくまで公民館活動単独でも学校行事単独でも無く、地域を巻き込んで実施する事業として確立していきたいという思いですのでご理解をお願いしたいと思います。

上村委員：学校行事、地域学校協働活動、学校を支援する学校運営協議会、生涯学習が基本である公民館としての位置付け、さらに、この魅力ある地域づくり事業の補助金ということで、行政内の連携もあるかと思いますが、学校行事の予算が足らず新しい展開へ持っていけない状況、地域学校協働活動の予算は無く、学校運営協議会については年に5千円しか無いという状況で事業費はほとんど無い状況、そういう中でこの地域学校協働活動を推進しよう、地域学校協働活動とは地域づくりの1つであるということを文科省は言ってます。総務省はどうかというところもありますが、進めていくきっかけの1つとしては良いかと思います。ただし、この魅力ある地域づくり事業推進補助金を考えた時、申請書を見させていただき、コミュニティスクール構想の意義という部分は理解できますが、魅力ある地域づくり推進事業の補助金としてこの事業を見た場合どうかという部分で、特に追加して説明をいただくことはありますか。

団 体：会員もボランティア、充て職でお願いしていますので、これ以上負担をお願いすることも難しいかと思っています。今後、何をしようか、どのように地域づくりへ広げて行くのかというと、こういう活動、取り組みに賛同してもらえる人を1人でも増やしていくことが大事ではないかと思っています。趣旨に合うかどうかわかりませんが、それも地域づくりの魅力の1つであると考えましたので、無理やりかもしれませんが、その様な思いで申請しました。予算の出处が無く、

まずは公民館活動の予算をこの事業に充てて、広げて行くきっかけを作っていくために過去 2 回実施しましたが、公民館の資金も多くある訳では無いので、これ以上は無理だということで申請したということが 1 つ、また、小学校 3 年生で始めたので、小学校を卒業するまでに、どの学年にもということで最低 6 年はやろうという見通しの中で、今年 3 年目ということです。

笠野会長：収支予算書について、今年の予算は過去の 2 回の実績に比べてどこが違いますか。

団 体：どこが違うということはあまりありませんが、財源として公民館で支出できるのが 8 万 4 千円、学校からは学校予算、親子行事ということで 2 万円、あと、自治会からは寄付という形でお願いできないかということで進めています。また、参加費として 1 人 500 円、36 人分の 3 万 6000 円という形で、後はこの補助金を申請しているところです。財源はあまり無いので、中にはクラウドファンディングはどうかという話もありましたが、これも少し違うということで、何とか皆さんに協力をお願いしている状況です。

笠野会長：過去 2 回についても、今年度の 34 万円の事業の規模と同じような規模で実施されたということでいいですか。

団 体：はい。

(審査終了)

4. 閉会（14：50）